

BASARE

九重からこのえへ

KOKONOE
FreePaper

2024.3
vol.19

BASARE

九重からこのえへ

「九重からこのえへ、しあわせのおすそわけ」をテーマに、ふだん着姿の
たくさんのいいもの・いい人を町の人が発見し、まちの人へ伝えるフリーペーパーです。
*バサレとは、大分の方言で「たくさん」という意味です。

二次元コードから
九重町バサレページに
ジャンプします。



大人男子のまずは乾杯！

今と昔・町の学校給食の今と昔・町のご長寿さんの今と昔

九重あるある

KOKONOE FreePaper 2024.3 vol.19



発行日：2024年3月15日 発行人：九重町公民館 BASARE プロジェクト
本書への問い合わせ先：九重文化センター 大分県玖珠郡九重町
TEL：0973-76-3888 Mail：bunka@town.kokonoe.lg.jp
Facebook ページ：https://www.facebook.com/basare.kokonoe/

バックナンバーは九重町 HP からご覧いただけます。本書は、無料で配布しております。
本書の一部または全部を無断で複写、複製することを禁じます。 Printed in Japan © Kokonoe Town.



栗野青壮年
小野 勇(南山田)

柿の木原青壮年
東飯田小学校 PTA
小野 昌則(東飯田)

野矢ん夢追人
佐藤 晃将(野上)

野上祇園実行委員会
衛藤 清治(野上)



愛する町への熱き想いを語りました!

主な活動内容を教えてください

小野 宏幸 南山田小学校のPTA会長5年目です。去年、自分たちの活動はこういうことをやっていますよ、というのを大分県を代表して九州大会で発表して表彰され文部科学大臣賞をいただきました。いろんな方に知ってもらえたことで地域も活気づき今後に繋がるいいなと感じましたね。

中島 和豊 今はコロナで休止中ですが元々は31日からお宮で餅をついたり、愛好作業をしています。

小野 勇 栗野青壮年の活動は、大晦日に餅つきをしたり、栗野河原で野焼きをやって、年2回は草切りをして維持管理をしています。栗おこし駅伝もしていたんですがコロナや参加者が減ったりとでなかなか出来なくて。

小野 宏幸 イベントを継続していくってなかなか難しいね。

小野 昌則 自分とこの青壮年は「月一回は集まって話そうや」って言ってスタートして、イベントに出店をしたり、公民館に集まってみんなで色々な話をしています。

佐藤 晃将 夢追人は、年2回活動資金を稼ぐために九電の草刈りをしていて、その資金で、盆踊りとクリスマスに小学生以下のお子さんがいる全世帯の家にプレゼントを配るサンタプロジェクトをしています。

衛藤 清治 野矢は盆踊りもすごいんですよ！去年、野矢の盆踊りに偵察に行ったらなんかすごくて。盆踊りが若者盆踊りになって、音は激しい、景品はすごい、食べ物は無料、めちゃくちゃすごい盆踊りやな〜って思ってた。

小野 宏幸 話聞きよったらあれやね、野矢の盆踊りはラップとか入っちゃやね〜と(笑)

小野 宏幸 イベントで言うと、最近マルシェがすごい人気よね！あれは、周知、宣伝をうまくやればもっとお客さんが増えて地域活性化に繋がるよね。

取材陣 周知、宣伝はどの方法が一番皆さんに届くんでしょうかね。

小野 宏幸 難しいよね、でも、やっぱり宣伝はインスタとかSNSをみんな活用してるね。年齢層によってはやはりチラシがよかったりもする。

衛藤 清治 ケーブルテレビも結構見ますよ！

佐藤 晃将 俺出てねーかな〜ってチェックしたりするもんね(笑)
小野 宏幸 わが子が出たら録画して「お前はテレビに出たんだぞ！」って言って見せるもんね。

松原 大 うちも、子どもが小さいやい時に出したのを録画してますもん。

小野 宏幸 ケーブルテレビを活用して、開催予定のイベントをまとめて見れるのもいいかもね。あと「ケーブルテレビを見てきた人、先着何名様は〇〇プレゼント」とかすると、子どもからじいちゃん、ばあちゃんまで大喜び！

皆さんが感じる今の九重町とは

小野 昌則 高齢化！少子化！もうそれに尽きる。

松原 大 近くの人に、隣に誰が住んでいるかわからない人が出てきて、



衛藤 清治 そんぐらい、ちっと、音がでかいんですよ！

松原 大 あれはちっとじゃねーよ(笑)

小野 宏幸 やぐらのことをブースって言よんじゃねーと(笑)

衛藤 清治 子どもが、来年から野矢の盆踊りに行きてーち言い出すくらいすげかったんですよ！

松原 大 こういう盆踊りは数少ないと思うよ。

佐藤 晃将 近所の人も遠方に行っている人たちも、みんな楽しみに待っていて、懐かしい顔ぶれが揃うんですよ。

衛藤 清治 野上祇園ですが、15年くらい前に一回終わったんですよ。お店なし、お客さんは身内しかない、保存会の中で「今年はやめようか」ってなったところ、それじゃわーいですよってことで、若い人たちが入ってフードコートを作ったステージ作ってやり始めて、今の野上祇園になりました。今後、野上だけじゃなくて、下旦祇園さんとタッグを組んで、九重大祭みたいな玖珠の祇園をこっちに呼ぶくらいの勢いで九重の一大イベントをやるのが目標ですね。

松原 大 いい話ですね。僕たちは、年越しに八鹿の前にある神社で初詣の参拝客を迎える準備や、どんど焼き、7月は下旦祇園があります。やはり、祇園がメインになるんですが、野上祇園に刺激を受けてこういう風にしていかなきゃって思いながらやっていますね。

時松 廣和 飯田の青壮年は、農協の部会になります。農協から助成をもらって活動しています。昔は50人くらいいたんですが、今は18人くらいですね。入った頃は、氷の祭典をしていた時代なので、そこで氷を運んだりバザーをしたりしてましたね。今は、活動自体は少ないんですが、農協がイベントをするときには一緒にやって出店したりします。

地域のコミュニケーションが薄れているように思います。なのでコミュニケーションをとるためにも地区の活動が必要やなと感じますね。

小野昌則 いくら地区に人が増えてくれたとしても地区のことに協力してくれる人が増えんことにはね。

小野宏幸 そうよね、住んでいる人たちみんなであつとも、力を合わせて協力せんと地区が成りたんのかなつち思うんよね。

小野昌則 それで言うとな、青壮年とかの活動でイベントに参加する時や草刈りの時とか、何万もいらん少しいけん助成してくれるとみんなのモチベーションも上がるんよ。イベントやつても赤になることの方がほとんどやけんね。参加した人たちのごはん代だけでも出たらありがたいんよ。なかなか難しいのもわかつちよんやけどね。

全員 ほんとそれ。

小野宏幸 最近、九重町の魅力というものが若干薄れてきているのかな、って感じる時があるんですよ。

九重町が好きだって言って、移住してくれる人たちの「良い」と言ってくれるところを聞いて、もっとPRしていくと良いのかな。

衛藤清治 今日集まった人達みたいな、個々で頑張ってる団体が結構いるので町と協力して、いろんな活動をうまくPR出来たらいいですよ。

小野宏幸 若い世代が「住みたいな」って思える町に繋がっていきたいね。

小野昌則 企業誘致もいいよね！地元で働くところがないと外に出ようっ



ちなるもん。

衛藤清治 そういえば、田舎のネット環境の方が都会に比べて良いって聞いたんですよ。

佐藤晃将 ネットがあるから仕事も田舎でできる！

小野宏幸 住む場所、働く場所があれば、つちいうのは理想やし贅沢な希望。言うのは簡単なのはわかつちよんやけどね、それぞれの地区の人たちが先のことを考えて「どげーかせんと！」って思ってるのは確かなんでお互い協力し合わんとね。

地域のために動けるそのエネルギーはどこからきていますか

衛藤清治 地域が大好きだからですね！もうこれです！近所のばあちゃんたち連れて来て、鏡餅の作り方を聞いて「あんだ、そうじゃねーばい」とか言われながらやって地域の交流が生まれるんですよ。あとは俺たちの合言葉なんですけど「子どもたちの笑顔の為に」っていうのも大きいですね。

小野宏幸 そこには、自分たちも楽しんじようけんできるんよね。

衛藤清治 そうですね。

松原大 僕も自分が年を取るまで子どもたちと一緒に出来たらつちいう想いでやってますね。

小野宏幸 間違いない！

松原大 田舎ですけどね。

小野宏幸 田舎やき盛り上げていかんとね。

松原大 魅力はすごくあるんですよ。

中島和豊 楽しいことをみんなで共有出来たらいいですね。互換性というかね。飲んで楽しい、話して楽しい、今が楽しい。そして、周りの意見を取り入れながら前に進んでいけたらいいなと思います。

10年後の九重町はどうなっているのでしょうか？

中島和豊 どうなっているかじゃなくて、10年後どうしたら楽しくなっているか！の方がいいんじゃない？マイナスじゃなくてプラスに持っていかなと。

佐藤晃将 なら、今日話したことが現実になると楽しくなってるかも。企業誘致があつて働くところがある、住むところがある、楽しみがある、子育てしやすい、住みやすく、活動しやすい。
小野宏幸 理想論やけどね、でも理想論を言わんと進まんもんね。
小野昌則 今住んでいる人たちが移住してくれる人たちにとって魅力のある町になってないかね。

松原大 今までこういう集まりってないから色々話せてよかったです。

小野宏幸 いろんな地区の人と話が出来のつち楽しいわ。みんな九重町が大好きなのもよくわかったし。

小野昌則 みんな九重をどげーかしたいっち思つちよんよ。こういう話ができるのはいいね！このメンバーでまた飲みたいわ。

衛藤清治 また、このメンバーでやりましょうよ！



九重の好きなところ

中島和豊 俺は元々玖珠町出身なんですけど、九重は地域愛がすごいですね。自分の地域のことをものすごく愛していて、どの年代も地元を盛り上げようやつち気持ちがあるね。

小野宏幸 今日来たメンバーもそうやけど、やっぱりみんな九重のことを考えるんよね。

小野昌則 お互い切磋琢磨しながら良いところを見つけながらやれるのが本当いいよね。

衛藤清治 俺なりに一生懸命色々やりよつたら、いつか若い子たちが振り向いてくれるんかなうつち、思いながらしる感じ。横の繋がりもあつて協力し合えて、個々もしつかりしている。

給食の食器は？

アルマイト

陶器

PEN樹脂

へ変化していきました。

今



PEN樹脂

- ・軽くて丈夫
- ・割れない
- ・洗しやすい

昔



アルマイト

- ・軽くて丈夫
- ・だが熱が伝わりやすく、持つと熱い

陶器

- ・食器を大事に扱う習慣が身に着く
- ・だが重いから運ぶのが大変
- 割れると危ない

人気メニューの今と昔

今

1位 トリニータ丼(鶏とニラの丼物)

2位 揚げパン

3位 ペンネ

4位 赤魚のごまだれ 5位 ポテトサラダ

令和5年度中学3年生の
リクエストより

昔

- ・いわしのかば焼き
- ・クジラ(マグロ)のグラッセ
- ・クジラの竜田揚げ
- ・キムチ鍋
- ・カレーシチューなど



揚げパン



トリニータ丼



赤魚のごまだれ



いわしのかば焼き

昔

九重町の栄養士 佐藤 憲子さん

(九重町雇用の栄養士として長年給食に携わって来られました。)

価格を抑えて、庶民的なものをいかに美味しく作るかを考えて献立を作っていました。昔は食材の成分表を見て、栄養計算をしていたので献立を作成することがとても大変でした。幼稚園(当時)から中学3年生まで10年間食べた学校給食の味をおふくろの味としていつまでも忘れないでいてほしいですね。

*カレー肉も「くじら肉(昭和40年代)」→「鶏肉・豚肉(昭和50年代)」→「牛肉・豚肉(現在)」に時代と共に変わりましたよ!

今



栄養教諭 上田 美穂さん

いまの学校給食は、児童・生徒の栄養を補うだけでなく、「食育」の教材としての役割も担っています。もぐもぐショートタイムという食育動画を作成して、学びながら楽しく食べられるように工夫しています。

また、献立表にはメニューを掲載するだけでなく、その給食に関してのコメントも添えています。九重町のホームページにも掲載しているのでチェックしてくださいね。



町の学校給食の今と昔

「九重町の学校給食は美味しい!」と“今”も“昔”も評判! だからこそ、九重で小学校や中学校を過ごした人にとっては年代を問わず、特別な思い出になっているのではないのでしょうか? 学校給食は学校で作っていた?それとも給食センター? 昔の人気メニューは?そして今の人気メニューは?などそんな九重の学校給食の今と昔について、少し調べてみました。



給食はどこで作られていた?

今

町内すべての学校給食は給食センターで作られている。

昔

それぞれの学校で作っていた! 4地区ごとで作っていた!

九重町の学校給食の始まりは昭和34年4月に東飯田小学校から順次開始され、昭和48年4月、最後に飯田中学校が学校給食を開始し、九重町内のすべての学校が学校給食となりました。また、当時は学校敷地内に調理場を設け、給食を作っていました。その後、4地区それぞれに共同調理場を設け、配送車により、各学校に搬入するようになり、副食等考慮されるようになりました。平成13年8月に現在も利用されている九重町給食センターが設立され、飯田地区を除く、学校給食を作るようになりました。飯田地区においても、平成19年より給食センターでの調理に統合され、町内すべての学校給食を給食センターで作るようになりました。



九重町独自の取り組み

今

ミヤちゃんデー(毎月19日)



#3263

普段より町内産の食材を使っていますが、とりわけミヤちゃんデーは特別です。地場産物や郷土料理を出しており、献立表のミヤちゃんマークがついているものは町産品や県産品が使われています。購入費用は町の予算で賄われています。

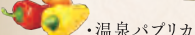
九重町の
地場産物



・やまめ



・干椎茸



・温泉パプリカ

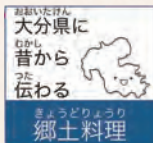
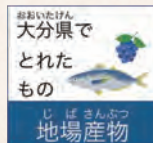


・梨

・おおいた和牛
・九重夢ボーク



・ブルーベリー



昔

週5日の
米飯給食の導入

九重町では「米の消費拡大は農業の存続と九重町の発展に大きく関わっている」ので、児童・生徒にも給食を通して正しい食習慣をつけることが望ましい。」として、昭和54年9月より県下初の週5回(全国的にも珍しい)の米飯給食が始まりました。

今



生涯
現役

モットーは楽しむことを嫌うこと!

杖なし、薬なし、通院なし!

ナカ タニ キ ヨ ノブ

中谷 記代亘さん

100歳

昔



少尉の頃

厳しい訓練に耐えました。

海軍航空隊の訓練校を卒業後すぐに終戦を迎え、その後は教員の道を歩まれた記代亘さん。今でもそれぞれの勤務地と勤務年数をしっかりと覚えておられます! 元気の秘訣は、腹6分の食事と、娘さんが毎日作ってくれる愛情たっぷりのスムージー。そして毎朝行う運動“真向法”も欠かせません。朝に運動をすると気合が入るそう。晩酌をされますが、休肝日を週に2日設けていることも健康の秘訣かもしれません!

首相、県知事、町長から
一〇〇歳の表彰状を
いただきました!



今



いつまでも
美しく!

自分の進みたいように支援してくれた両親に感謝です。

昔2tトラックを運転していました!

サ トウ

左藤 マツノさん

99歳

昔



洋裁学校の学生時代

昔から図工と習字が得意です。

今も昔もお洒落なマツノさん。姿勢がとても美しいのは父親から常に厳しく言われていたから。看護学校に入学するも『自分には合わない!』と洋裁学校に入学。卒業後は軍需工場にて勤務し、ミシンの修理もできるので工具を腰につけて工場内を走り回っていたそう。終戦後は家庭科の先生として勤務。教員不足でなんと英語の授業まで担当していたとか!『お役に立てるなら、どこまでもお役に立てることをしたい』と今後の抱負を教えてくださいました。

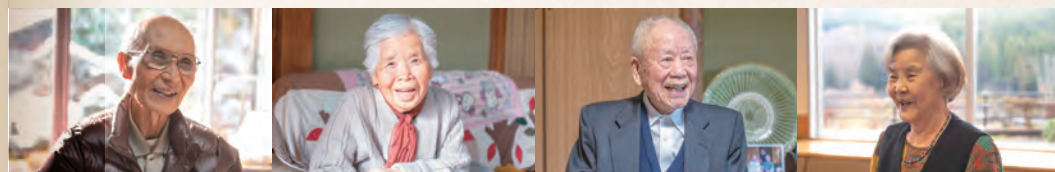
長生きの秘訣は
腹を立てんこと!
心が元気でいること!



町のご長寿さんの今と昔

九重町には元気なご長寿さんが多いんです!

どんな人生を歩んで来られたのかな? どんな長生きの秘訣があるのかな?
大先輩方にお話を聞いてみました。



結婚70周年のプラチナ婚を迎えました!

生年月日が同じなんです!

トキ マツ トク シゲ

時松 徳重さん

トキ マツ カヨ コ

時松 加代子さん

93歳

今



おひとり
夫婦

徳重さんオリジナル卵焼き『なんじゃこりゃ』



玉ねぎ、にら、ちくわ、とろろ、
焼き豆腐、ちりめんじゃこ等
を入れてゆっくり焼くと2cm
くらいの厚みになります。

玉ねぎを
200本
植えました!

夫が作る
『なんじゃこりゃ』を
毎日食べよります

あ
は
は



昔



皆様に支えられて感謝です。

約40年前のツーショット

徳重さんは長年勤めた九重町役場を定年後、保護司として地域を見守り、加代子さんも更生保護女性会員として活動。また一方で徳重さんは九重町社会福祉協議会に勤務し、県内初の温泉水を利用した訪問入浴の導入に成功!『関わってくださった皆様の支援があり実現した』とのこと。加代子さんの生きがいは模様替えや生花、徳重さんは毎日のご飯作り。お互いを支え合う日々をお過ごしです。

玄関に突如現れる
野菜のお裾分け♪
大体、誰かは予想がつく。



車でウロウロすると
「昨日どこどこに
おったやろ」と、
言われることがある。

スタッドレスタイヤを
早めに交換すると、
雪マークが出て
慌てて交換する人の
2パターンに
概ね分かれる。



12月に入ると
「タイヤ替えた？」の
会話のやり取りが増える。

玖珠に行くことを「くだる」と言う。



軽トラの荷物を固定する時の
おじちゃん達の結び方が
かっこいい！

「あまがせ」が
会話に出てくると
「甘川水」のことか
「天ヶ瀬」のことかの
確認が必要。

中には、軽トラックの荷台に
滑らないようにとブロックを
積んでいる人がいる。

雪の積もった車と
すれ違うと



「飯田は降ったんやね〜」と思う。

飯田の人が雪道をくだる時、
途中から雪が減って、景色がガラリと変わるので、
「こげ〜違うと！」と思うことがある。



九重あるある

何か頂いたら、
それに対してのお返しを渡し、
今度はそのお返しのおれにと、お返しがくる。



「くじゅうまち」と言われると
「ここのえね！」と、
べの中で思う。



くじゅう
ツマナ

「まー飲みよ」と言って、
くれる飲み物は、
缶コーヒーか
栄養ドリンクか
オロナミンC

餅まきをする時、
エプロンの裾を広げて取る達人や、
帽子でキャッチする凄腕の人が現れ、
子ども達は
下に落ちた餅を
拾うことに



尽力する！

お数珠と
同じくらい
忘れてはいけないのが、
100円！



初盆の時期は、
町から配布される
初盆名簿が必須！



お悔やみの放送の時
ちゃんと聞きたいので
テレビのボリュームを下げる。
または、話している家族が近くにいたら
「シッ！！」と言う。



「八鹿♪八鹿♪の天気予報〜♪」
といえば必ず「でした♪」

ばあちゃんからもらうお菓子は、
ティッシュに
包まれていることがある。